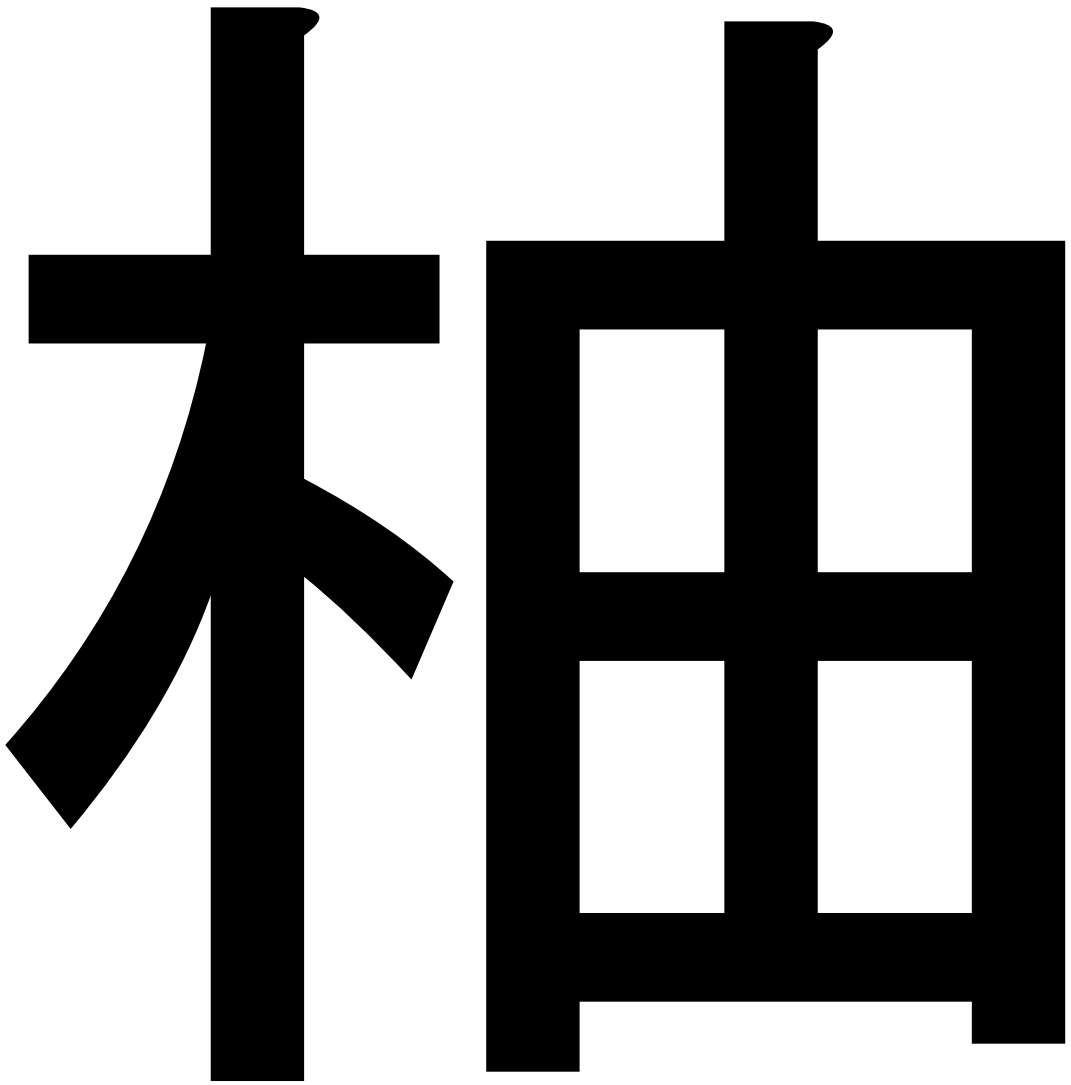
①

株火

柳

③



④

桃

⑤
従

⑥

⑦

松

⑧

⑨

校

⑩

榛

⑪

⑫

椿

⑬

橘

⑭

粉

⑮

極

⑯

櫻

⑰

标神

⑱

攀

⑲

樂

⑳

樟

㉑

桐

㉒

樺

㉓

木圭

㉔

木白

㉕

棍

㉖

柿

㉗

木辛

㉘

梅

㉙

模

㉚

楓

1

楸 【 ひさぎ 】 右の字の意味

雑学知識

アカメガシワの古名。トウダイグサ科の落葉高木。キササゲの古名。ノウゼンカズラ科の落葉高木。→果実は腎臓疾患の利尿薬に使われる

楸 の付く言葉

【 】

2

柳 【やなぎ】 右の字の意味

『留』の原字であり、すべるものを一時止めておく意から、枝が流れるようにすべる木。

雑学知識

ヤナギ科 Salicaceae **ヤナギ属** *Salix* の樹木の総称。世界に約350種あり、主に北半球に分布する。日本では、柳と言えば一般にシダレヤナギを指すことが多い。

柳 の付く言葉

柳葉魚 【 ししゃも 】

《アイヌ語から》キュウリウオ科の海水魚。全長約15センチ。体は細長く側扁する。背側は暗黄色、腹側は銀白色。秋、北海道の太平洋沿岸の河川に上って産卵する。

3

柚 【 ゆず 】 右の字の意味

搾り出す　汁を搾る＋【音符】

雑学知識

九州地方では、柚子胡椒と呼ばれる調味料としても使用される。これは柚子の皮に、皮が青い時は青唐辛子を、黄色く熟している時は赤唐辛子を、そして塩を混ぜて作るもので、緑色または赤色をしている。

柚 の付く言葉

柚子湯　【　ゆずゆ　】

冬場、果実全体または果皮を布袋に入れて湯船に浮かべる。薬効成分は特定されていないが、血行を促進させることにより体温を上昇させ、風邪を引きにくくさせる効果があるとされている

4

桃 【 もも 】 右の字の意味

『兆』のパンと2つに離れる様から、実が2つに割れる木。

雑学知識

生産量ベスト3外だが、桃といえば**岡山県**を連想する人も多いだろう。岡山県でも桃は盛んに生産されており（白桃は生産量日本一）、**桃太郎**伝説との関わりもあり、同県の県の花に制定されている。

桃 の付く言葉

桃園の誓い 【とうえんのちかい】

桃園の誓いまたは桃園結義とは、「三国志演義」に登場する劉備・関羽・張飛の3人が、桃の木の下で義兄弟の誓いを結んだこと。

5

樅木のつり橋

樅 【 もみ 】 右の字の意味

縦に伸びる＋【音符】

雑学知識

東京近辺の高尾山には、モミの密生する地域があり、またケーブルカー高尾山駅の周辺でモミの大木を見ることができる。紀伊半島などではトガサワラも混成する。

樅 の付く言葉

樅の木は残った もみのきはのこった

山本周五郎の歴史小説。江戸時代前期に仙台藩伊達家で起こったお家騒動「伊達騒動」を題材にしている。

6

檀 【まゆみ】 右の字の意味

太くて豊かの意から、太くてずっしりした木の意

雑学知識

ニシキギ科の落葉低木。山野に生え、葉は楕円形で、対生。雌雄異株。初夏、緑白色の小花が集まって咲き、果実はほぼ四角形で、熟すと四つに裂けて赤い種子が現れる。古くは材で弓を作った。やまにしきぎ。かわくまつづら。

檀 の付く言葉

檀家 【 だんか 】

一定の寺に属し、寺に金品を寄進している家。檀越(だんおつ)。だんけ。

7

松 【 まつ 】 右の字の意味

つつぬけの意から、葉が細くて葉の間から透けて通る木

雑学知識

マツの葉は子葉、初生葉、鱗片葉、尋常葉（針葉）の4種類に分けることが出来る。このうち、私たちが普段目にするのは尋常葉（針葉）のみであり、他の3種類は発芽直後から数年の間でのみ見られる。

松 の付く言葉

松明 【 たいまつ 】

長い棒やさおなどの突端に、松脂など燃えやすいものに浸した布切れを巻きつけたもの。

8

檜 【ひのき】 右の字の意味

【音符】

雑学知識

日本と台湾にのみ分布。中国で「檜（桧）」という漢字はビャクシン属を指す。日本では木曾に樹齢450年のものが生息しているのが最高であるが、台湾では樹齢2,000年のものが生息している。

檜 の付く言葉

檜網代 【 ひあじろ 】

ヒノキの薄板を網代に編んだもの。また、それを用いた輿(こし)や女性用の簀

9

柊【ひいらぎ】 右の字の意味

【音符】

雑学知識

庭木の中では病虫害に強い植物。低木で常緑広葉樹であるため、盆栽などとしても作られている。殖やし方は、実生または挿し木。葉に棘があるため、防犯目的で生け垣に利用することも多い。

柊 の付く言葉

柊鰯　【ひいらぎいわし】

節分に魔除けとして使われる柊の小枝と焼いた鰯の頭、あるいはそれを門口に挿したもの。西日本では、やいかがし（焼嗅）、やっかがし、やいくさし、やきさし、ともいう。

10

榛〔はしばみ〕 右の字の意味

【音符】

雑学知識

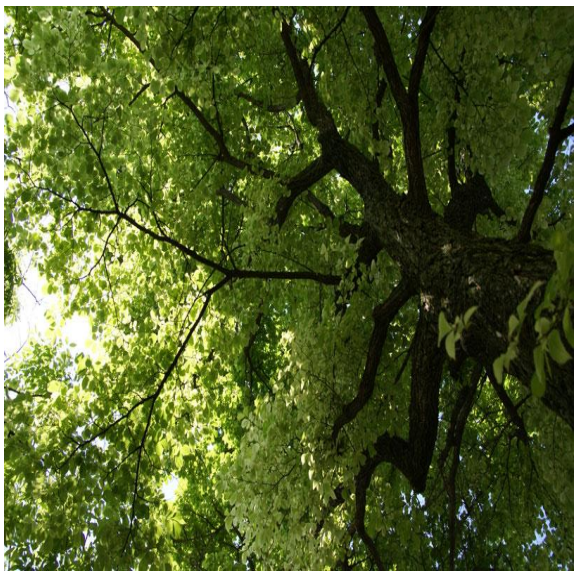
ロシア沿海地方から東アジア北東部の全域、詳しくはウスリー川流域、及びアムール川流域（中国東北部を含む）から中国陝西省にかけての地域、ならびに朝鮮半島と日本列島（北海道・本州・九州）に

榛 の付く言葉

榛色　　【 はしばみいろ 】

日本の伝統的色名の一つ「榛色（はしばみいろ）」は、セイヨウハシバミ（ヘーゼルナッツ）の実の色に由来している。

11



楡 【 にれ 】 右の字の意味

【音符】

雑学知識

ニレ科ニレ属の高木の総称。アキニレ、オヒョウなどがあるが、普通はハルニレのことを指す。ニレ科にはケヤキ、ムクノキ、エノキなどが含まれる。

楡 の付く言葉

楡木駅 【 にれぎえき 】

栃木県鹿沼市楡木町にある東武鉄道日光線の駅。駅番号はTN16

楡原駅 【 にれはらえき 】

富山県富山市楡原にある西日本旅客鉄道（JR西日本）高山本線の

12

椿 【つばき】 右の字の意味

ずっしりとこもるの意から、幹の下方がずっしりと太い木。

雑学知識

徳川秀忠が吹上御殿に花畑を作り、ツバキを含む多くの名花を献上させた。これが江戸ツバキの発祥といわれる。

椿 の付く言葉

椿寿 【 ちんじゅ 】

荘子『逍遥遊』の「上古大椿という者あり、八千歳を以て春と為し、八千歳を以て秋と為す」から、長生きすること、長寿。特に人の長寿を祝っていう語。

13

橘【たちばな】 右の字の意味

丸い穴を開ける、まるい の意を含むことから、丸い実のなる木。

雑学知識

ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生。

橘 の付く言葉

橘中の楽しみ 【　　きっちゅうのたのしみ　　】

中国の巴邛（はきょう）で、橘の実を割ってみると、その中で二人の仙人が向かい合って碁を楽しんでいたという『幽怪録』の故事より、将棋や囲碁をする楽しみ。

14

枌 【 そぎ 】 右の字の意味

【音符】ブン・フン

雑学知識

人名の時の読みは　すぎ・へぎ

枌　の付く言葉

枌楡　　【　　ふんゆ　　】

楡（ニレ）の木。漢の高祖が故郷の社にあった楡の木を都に移し神として祀ったことから、神聖な場所・神社、転じて故郷。

15

榁 【しきみ】　右の字の意味

びっしり茂る意から。

雑学知識

榁（しきみ）の語源は四季を通して美しいことから『四季美』、また実の形から『敷き実』、有毒なので『悪しき実』からとも言われる。

榁　の付く言葉

【　　】

16

櫻 【 さくら 】 右の字の意味

『貝2つ＋女』が貝印を並べて首に巻く貝の首飾りをあらわし、とりまく意を含むことから、花が木をとりまいて咲く木。

雑学知識

『櫻』は元々ユスラウメを意味する言葉だった。日本にユスラウメが入ってきたのは江戸時代後期頃のため、日本では『櫻』の字はサクラに転用された。

櫻 の付く言葉

櫻井翔 【 さくらいしょう 】

日本の俳優・タレント。

17

榊 【 さかき 】 右の字の意味

神に捧げる木の意から。日本製の漢字。

雑学知識

日本では古くから神事に用いられる植物であり、『榊』という国字もそこから生まれた。

榊 の付く言葉

榊舁き 【 さかきかき 】

祭礼で、神輿（みこし）の渡御（とぎょ）のとき、先頭に立って榊を担ぐこと。またその人。

18

欅 【けやき】 右の字の意味

手を揃えて持ち上げるの意から手を挙げた形に伸びる大木。

雑学知識

木目が美しく磨くと著しい光沢を生じる。堅くて磨耗に強いので家具・建具等の指物に使われる。日本家屋の建築用材として古くから多用され、神社仏閣にも用いられた。

欅 の付く言葉

欅平駅 【 けやきだいらえき 】

富山県黒部市にある黒部峡谷鉄道本線の駅。執着駅。標高599m

19

櫟 【 くぬぎ 】 右の字の意味

『樂』の字は「まゆが2つ＋白（どんぐりの形の実）＋木」からなり、野蚕が繭を作る木

雑学知識

橡・椚も【くぬぎ】と読む。
ブナ科の落葉高木。椎茸の栽培の原木とする。

櫟 の付く言葉

櫟炭 【 くぬぎずみ 】

クヌギ材から作った良質の木炭。ささらずみ。

20

樟【　くす　】　右の字の意味

はなやか、高く伸びる　の意

雑学知識

語源は『クスリノキ（薬の木）』『クスシキ（奇し木）』とする説が有力
『楠（クス）』は南方原産の木をあらわす。

樟　の付く言葉

樟紀流花見幕張【　　くすのきりゅうはなみのまくばり　　】
歌舞伎狂言。時代物。7幕。河竹黙阿弥作。明治3年（1870）初演。慶安の変を題材にしたもの。別名『慶安太平記』通称『丸橋忠弥』

21

桐の家紋

桐 【 きり 】 右の字の意味

筒抜け。筒の意から、幹が筒型をしてまっすぐのびることをあらわす。

雑学知識

ゴマノハグサ科の落葉高木。材は白く、軽くて狂いが少なく、下駄・箪笥に重用。

桐 の付く言葉

桐壺源氏　【 きりつぼげんじ 】

源氏物語を読み始めても最初の桐壺の巻で飽きてやめてしまうことから、いい加減な学問や教養のたとえ。

22

樺 【 かば 】 右の字の意味

下に垂れる花の意

雑学知識
世界に40種、日本に10種がある。
落葉紅葉樹で、北半球の亜寒帯から温帯にかけて広く分布する。

樺 の付く言葉
樺色 【 かばいろ 】
蒲の穂のような色。赤みを帯びた黄色。
樺桜 【 かばざくら 】【 かにわざくら 】
カバノキ類に木肌が似ている桜の木。

23

桂 【かつら】 右の字の意味

△型にきちんとして格好がよいことをあらわし、全体が△型に育ったよい形をしている木

雑学知識

カツラ科の落葉高木。山地に自生。材は建築・家具・碁盤などに用い
中国の伝説で、月の世界にあるという木。

桂 の付く言葉

桂男 【 かつらおとこ 】

月に住むという伝説上の男。または月の異称『かつらお』

桂剥き 【 かつらむき 】

眺めの輪切りにして、皮を剥くように薄く長く帯状に切ること。

24

柏 【かしわ】 右の字の意味

白の原字はどんぐり状の小さい実の形を描いた象形文字であることから、丸く小さな実のなる木

雑学知識

名古屋市遺精では鶏肉の事を『カシワ』と呼ぶことがあるが、これは地鶏の羽色が柏の葉の紅葉の色に似ていることから。

柏 の付く言葉

柏餅 【 かしわもち 】

平たくまるめた餅を二つに折り、餡を挟み、柏の葉で包んだ和菓子

柏市 【 かしわし 】

千葉県の市のひとつ

25

梶 【 かじ 】 右の字の意味

細いしり毛の意から細い木の梢をあらわす。

雑学知識
『梶』は『楫』『舵』と同義で、船の進行方向を定める装置。

梶 の付く言葉
梶棒 【 かじぼう 】
人力車や荷車を引くための長い柄。
梶紋 【 かじもん 】
舵を象った家紋

26

柿 【 かき 】

右の字の意味

右側の字はもとは「市」ではなく、つるのまいた棒の上端を一印で示した字であり、上の方の意を含む。

雑学知識

柿は日本古来の植物で、ヨーロッパの方でも「カキ」で通用する。

柿 の付く言葉

猿柿 【 さるがき 】
信濃柿（しなのがき）の別名

千成り柿 【 せんなりがき 】
信濃柿（しなのがき）の別名

27

梓　【あずさ】　右の字の意味

鋭い刃物の象徴で切る意をあらわすことから、刃物で
切ったり刻んだりするのに適した木。

雑学知識

長野県松本市に梓川梓【あずさがわあずさ】という地名があります。
列車名『あずさ』『スーパーあずさ』は、松本市を流れる梓川から。

梓　の付く言葉

梓弓　　【　あずさゆみ　】
梓の木で作った弓

梓巫女　　【　あずさみこ　】
梓弓の弦を打ち鳴らして神霊・生霊・死霊などを呼び寄せ、自分の

28

梅 【 うめ 】 右の字の意味

母親がどんどん子を生むことを示すことから、多くの実をならせ女性の安産を助ける木

雑学知識

バラ科の落葉高木。葉は卵形で細かいギザギザがある。
松や竹と共にめでたい植物とされ、花兄（かけい）・風待ち草・好文木（こうぶんぼく）・春告げ草・匂い草などの別名がある。

梅 の付く言葉

梅に鶯 【 うめにうぐいす 】
取り合わせのよい2つのものの例え

梅と桜 【 うめとさくら 】
美しいもの、すばらしいものが並んでいることの例え

29

榎 【えのき】 右の字の意味

大きくかぶさることを示し、枝葉が大きくかぶさる木

雑学知識

ニレ科の落葉高木。
材は器具・薪炭用。
江戸時代には街道の一里塚に植えられた。

榎 の付く言葉

榎寺 【 えのきでら 】
福岡県太宰府市にある寺。菅原道真の配所。現在は榎社と称する。

榎茸 【 えのきたけ 】
シメジ科のキノコ。晩秋から春にかけて広葉樹の切り株などに生える。

30

楓 【かえで】 右の字の意味

実に薄い翼が付いて、風のままに飛ぶ木

雑学知識

葉の形がかえるに似ていることから『蛙手』【かへるで】→【かへんで】【かへで】になり、【かえで】になった。

秋に紅葉し、『もみじ』と呼ばれるが、『もみじ』とは紅葉樹の総称。

楓　の付く言葉

楓の間　【　かえでのま　】

江戸城中の将軍の居室。政務後にくつろぐのに用いた八畳二間の座

楓葉　【　ふうよう　】

紅葉した楓の葉のこと。